フォトエッセイ『国境なき音楽紀行』

第6回　ミラノ ～食の万博と平和レシピ～ 最終回

日頃、音楽を通して人々と交流し、世界各地を旅することが多い。これら旅の印象と感動を、フォトエッセイという形でほんの一部でも日本の皆さまにお届けできればと思う。

平井元喜

コモ湖畔の村の教会。ベッリーニのオペラ「ノルマ」を初演した伝説的ソプラノ歌手、ジュディッタ・パスタ（1797–1865）の旧邸宅が近くにあり、公演後滞在した

おいしいご飯を想像するだけで人は幸せになる。芸術、音楽、スポーツ同様、食は人間の感覚に直接訴えかける。理解するのに言語を必要としないのだろう。

「食」がテーマのミラノ国際博覧会（EXPO Milano 2015）で、和食、そしてお互いの食文化を通して、世界を平和にするプロジェクトを行う人たちがいた。ピースキッチンである（TABLE FOR TWO International, umari, GLIDERにより設立）。世界の食の不均衡解決のために活動するTABLE FOR TWO代表の小暮真久氏とは、特に《アフリカの子供たち》、《平和》、《教育》など、音楽を通して行う私のライフワークと共鳴するところが多くあった。10月30日、ミラノ万博のイベントとして、ピースキッチンと、私が主導するプロジェクト「日本の民話絵本を世界へ」が、日本の酒造メーカーや三井物産などの協力を得て、《食・音楽・民話絵本》の参加型コラボレーションを行った。

日本酒中心のレセプションの後、アットホームな雰囲気の中でキアーラ・パスカリーニ氏が3話の絵本や民話をイタリア語で朗読した。私は音楽（作曲および即興演奏）をピアノで担当した。先ずは《和》や《食》をテーマに『おむすびころりん』。次に《空腹（飢饉）→奪い合い（戦争）→和解（平和）》という人間の根源的なストーリーをユーモア交じりに描いたアフリカ（タンザニア）の民話『しんぞうとひげ（心臓と髭）』。最後に、今回のファミリーイベントに相応しい《家族、幸せ、愛、生と死》や《色即是空》ともいえる哲学的世界を描いた『100万回生きたねこ』を上演した。

5～10月の会期中、バビリオンだけでなく街のいたるところで、「2015ミラノ万博」関連イベントが行われていた

その後、一緒に学び、作り、食べる「おにぎりワークショップ」を行った。和食（＝和する食）は日本人とイタリア人の心を結びつけ、参加者を和ませた。笑顔と平和が生まれた。

人種・言語・宗教の壁を超えて、音楽は人の心に直接響く。そして、音楽を愛するという一点において、世界に国境など存在しない。この信念を胸に私の旅は続く。

「おにぎりワークショップ」で作り方を教えるフード・コーディネーターの大橋玄さんと、おしゃべりしながら楽しそうにおむすびを作るイタリア人参加者たち

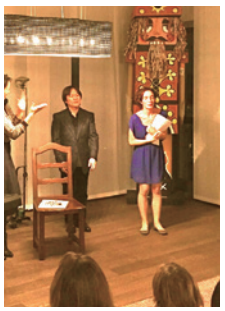
＊TABLE FOR TWOは、当チャリティ・イベントの前後約6週間「おにぎりいただきます！ソーシャルアクション」を行い、25,000食もの給食を、アフリカ・アジアの子どもたちに届けた

ひらいもとき

ピアニスト、作曲家。73年東京生まれ。桐朋高校、慶応義塾大学文学部（哲学科）、英王立音楽院大学院卒。これまでヨーロッパ・中東・アフリカ・米国・中南米・アジア各地を演奏旅行。米カーネギーホール、英ウィグモアホール等でしばしばリサイタルを行う。2016年は、パービカンセンター、セント・マーティン＝イン＝ザ＝フィールド（ロンドン）、コンセルトヘボウ（アムステルダム）、コンツェルトハウス（ウィーン）など欧州各地で、また国内では銀座王子ホール等でリサイタルを予定。音楽を通して平和・教育・医療・環境問題にも積極的に取り組む。3.11以降、復興支援コンサートを続け、1,500万円以上を被災地へ寄付。07年よりプロジェクト「日本の民話絵本を世界へ」（朗読・音楽・映像のコラボ）を芸術監督として主導。NHK文化センター、時事通信社トップセミナー等で講演。BBC、NHK、テレビ朝日「題名のない音楽会」などテレビ・ラジオ出演も多数。96年よりロンドン在住。

（写真左から）ピースキッチン創業者・小暮真久さん（TABLE FOR TWO代表）、筆者、流暢なイタリア語で司会をつとめた嶋末みどりさん

▶表情豊かなイタリア語で緩急自在に朗読し、喝采を浴びるキアーラ・パスカリーニさんと筆者



◀「くるみ割り人形」とそっくりなピースキッチン創業者・古田秘馬さん（umari代表）

「平井元喜・公式ウェブサイト」に旅の写真を公開中。 もっと世界の人々や風景を見てみたい！という方必見です。 www.motoki-hirai.com